

無理な追い越しや幅寄せなど、危険な運転行為が問題となっている。一方、自分もひよつとすると迷惑な運転をしたことあるかも・・・と思いを巡らせる人も結構いると聞く。周りを把握しながら協調性のある運転をするに越したことはないが、心配事がある時、急いでいる時など、模範的に行動できないこともある。

ところで、スーパーで人とすれ違ひざま軽くコートが触れ合う時などに「ごめんなさい」、「すみません」と丁寧に言葉をかけてくれる人が多い。大人ばかりでなく、学生さんもきちんと言葉かけをしてくれる。

ふと、若い時にそうした心遣いをしていただろうか、と振り返ると、あまりそういう記憶はない。若い時には、今と比べ運動能力があり、謝るなどという必要がなかったのかもしれない。しかし、軽くぶつかるようなことがあっても素知らぬ顔で済ましていたのではないだろうか。今、人々は相手を配慮して振る舞うようになつてきた気がする。

そこで気になるのは走行中における他者(車)への配慮である。道を

心遣い

譲ってもらった時などありがとう、と伝えたいが、なかなか難しい。顔が見えれば会釈ができるが、暗い道や高速運転中に、感謝を伝えるのは困難である。ライトの点滅などもあるようだが、計器を触るゆとりがないことも多い。人と人の間では会話や会釈、笑顔など様々な感情の伝達方法があるが、車対車では「ありがとう」「ごめんなさい」といった感謝、謝罪を伝える方法が乏しい。そうしたことがもつと伝えられるようになれば車同士のトラブルも大分減るのではないだろうか。車に乗っている時にも人と人のコミュニケーションが自然に取れるような手段が望まれる。道具を使う時に円滑な人間関係を築くことができる事、このことは今私たちに求められているような気がする。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

問い合わせ

人権啓発広報委員会
☎ 880・6569